

今日の説教のポイント<マタイによる福音書 14 章 13～21 節>

①休息を返上して人々に向かわれたイエス様。これが私たちの主！

洗礼者ヨハネの死を聞いて、「ひとり人里離れた所に退かれた」(13) イエス様。しかし押し寄せる群衆を無視できず、むしろ「深く憐れまれみ」(14)、彼らのために夕暮れまで働き続けられました。このお方が私たちの救い主であると聖書は告げているのです。イエス様の十字架の死の意味と言われると難しいですが、この主イエスの姿の延長線上にあるものと考えたら少し分かって来るのではないのでしょうか。

②弟子たちに欠けていたことと、弟子たちの姿に学ぶべきこと

夕暮れになり、弟子たちは群衆の解散をイエス様に勧めましたが、主イエスの答えは予想外のものでした。「行かせることはない。あなたがたが彼らに食べる物を与えなさい」(16)。しかし、弟子たちは主の言葉に従い、それは成ったのです。二つのことを思います。一つは、主のご計画は私たちの知恵と想像力を超えているのだということ。二つ目は、主は群衆に対してとは違い、弟子たちには難しい要求、しかし正しい要求を妥協することなく求められ、そして弟子たちはそれに応えたということ。群衆を思っただけの弟子たちの気配りは悪くはないのですが、主のご計画の前では余計な心配と配慮だったのです。弟子たちはこの時、そのことを学んだに違いありません。主もまた弟子たちに、このことが分かること、分からなくても主に従うことを求められたのです。そして、弟子たちは群衆の前で、その姿を見事に示したと言えるのではないのでしょうか。

③開かれていると同時に、真剣に主に従って歩む集団を目指す！

ここを読むたびに、群衆と弟子たちからなるこの集団をどのように考えればいいのか、気になっていました。今日配布した月報に書いた文章をご覧ください。そこに書いたことと今日の箇所から教えられることは重なります。教会は、外（群衆、未信者）に向かつては開かれ、内（弟子たち、教会員）に向かつては深い理解が求められる集団です。主を求めて来始めた時は皆自己流。それも否定されないが、それでいいわけでもない。開かれていると同時に、何でもありではなく、主に真剣に従う内容を深めていく教会でありたいと思います。